自然観察ＮＯＷ

野幌森林公園自然情報
2011.08.4 No.4
北海道ボランティア・レンジャー協議会

諺から学ぶ

日頃使っている諺には的をえていて「なるほど！」と納得することがある反面、「…？」と疑問が生じることもあります。その疑問を調べてみると新しい知識が得られることもあります。この時期公園内で見られる植物の諺考です。

《ウドの大木》

春の芽だしの時のウドを食すると、春の喜びを感じますが、夏になるとこのウドは誰もが関心を寄せなくなるばかりか、大きく成長した姿を「ウドの大木」と軽蔑の目を向けます。

国語辞典に「ウドの大木」を「身体ばかり大きいが役に立たない人のたとえ」とありますが、昨今では背の高い人への差別用語となりかねません。

ウドは夏の時期になると２ｍを超えるほどの高さになるものもありますが、ウコギ科タラノキ属の多年草（草本）で木本ではありません。にもかかわらず、何故、ウドを大木と表現したのでしょうか？　理由はいくつかあります。

①春、ウドが地上に顔をだした若芽のときは山菜として多くの人達に好まれますが、成長するとウドの茎は木のように太く堅く食用に適さなくなり、勿論木材にもなりません。大きくなったウド（草本）を樹木に見立て「ウドの大木」と表現したのでしょう。

②ウロ（洞）からウドに転化したという説もあります。外観が立派な大木なので、さぞかし沢山の用材が取れるだろうと伐採してみると、中心部分が菌類などが侵入して分解が進み大きなウロ（洞）になっていていて無駄な部分が多く「ウド（ウロ）の大木」になったとの説です。

③ウドの木という木本（樹木）があります。この木はオシロイバナ科の常緑高木で熱帯産で小笠原諸島、台湾、沖縄などにも生えていて、高さ10ｍ以上にもなりますが、材質が柔らかく用材にはならず役に立たない樹木なので、そのものズバリ「ウドの大木」との説です。

この時期、ウドを見て、皆さんはどの説を支持しますか。

タデ(ヤナギタデ)

《タデ喰う虫も好きずき》

この諺は「タデ（蓼）のような苦みのあるものを好んで食べる虫がいるように人の好みもさまざまでる」と説明されています。蓼は爛れるというように舌をただれさせるほど辛いところからきていて、このタデはヤナギタデのことを指し、特有の香りと辛味で薬味や刺身のつまに用いられています。

タデの仲間の多くは夏から秋にかけて、地味な花を咲かせます。ヤナギタデの他に、ハナタデ、イヌタデ、オオイヌタデを観察してみましょう。

自然ガイド野幌森林公園（村野紀雄　北海道新聞社）によるとヤナギタデ、ハナタデ、イヌタデ、オオイヌタデを含むタデ科イヌタデ属には２０種がリストアップされています。また、私たちがよく目にする、オオイタドリやこれから見られるミズヒキもタデ科の植物です。

なでしこジャパン

世界女子サッカーの試合で優勝した「なでしこジャパン」の活躍は明るいニュースとして話題になっています。日本女子代表の呼称は2004年に制定され、その時「大和なでしこ」という言葉が使われ、世界に羽ばたき、世界に通用するようにとの願いをこめて「なでしこジャパン」となった経緯があります。ナデシコは万葉集の山上憶良の歌でよく知られた秋の七草の一つです。

ナデシコ（撫子）の名は、撫でたくなるほどかわいい花との意味がありますが、属の学名ダイアンサス（Dianthus）はギリシャ語起源の合成語でギリシャ神話の神ゼウスの花といった意味で、たぐいまれな美しい花姿をたたえての命名といわれていいます。

俗にナデシコの名で呼ばれている種類は野生種、園芸種を問わずナデシコ科ナデシコ属に分類される仲間全体に共通して用いられています。北海道の広い地域でみられる北方系のエゾカワラナデシコは学名上の母種にあたります。カワラナデシコは北海道渡島半島から本州、四国、九州、台湾、中国大陸など暖帯から温帯に分布するといわれます。

野幌森林公園ではエゾカワラナデシコは見られませんが（自然ガイド野幌森林公園　村野紀雄　北海道新聞社には収録されていません）火山灰地や海岸線近くで見ることができます。

森の奥から聞こえる鳴き声

野鳥の姿は木々の葉に隠れて発見に苦労します。そんな夏の時期は特徴のある鳴き声から野鳥を想像しましょう。

◆アオバト

「アオーアオ、アオーアオ…」と悲しげな声が森の奥から聞こえてきます。この鳴き声の主はアオバトです。アオバト（青バト）と書くので青い色をしたハトと思われがちですが、日本名で緑バトと書くように緑色で、特に頭から胸にかけ黄色味が強い色です。

このアオバトは塩分を含んだ温泉水や海水を飲むという面白い習性を持っています。野山を生活の場とする野鳥で塩分を含んだ温泉水や海水を飲むのはアオバトだけです。何故塩分のある水を飲むかというと、彼らの食べ物の木の実や花では取れない塩分のミネラル補給ではないかと考えられていますが十分なことは解っていません。海水を飲みに行く場所として、小樽の張碓海岸が知られています。

◆トラツグミ

「ヒィーヒィー」「ヒョーヒョー」と主に夜間に鳴きますが、雨天や曇っている時は日中でもトラツグミは森の中で細い声で寂しげな鳴声なので「ぬえ」「ぬえ鳥」などとも呼ばれています。

日本の古典に登場する顔が猿に似て、胴は狸、足は虎、尻尾が蛇、そして「ぬえのような鳴き声で鳴く」架空の動物が描かれていますが、トラツグミの別名「ぬえ」より架空の動物に「ぬえ」の名を奪われてそちらの方が有名になっています。

トラツグミの体長は30㎝ほどで、ヒヨドリ並みの大きさです。首から腰までと、翼などの体表は黄褐色で黒い網状の三日月斑があります。